

R4 年度 第 6 回 IYEO 幹事会 議事録

日時：2023 年 1 月 21 日(土)9:30-12:30

会場：Zoom オンライン

出席	長末会長、本田副会長(戦略)、小島副会長(事業)、佐々木副会長(都道府県)、白木副会長(社会貢献・財政)、岸田(関東B)、日南田(北信越B)、高木(東海B)、佐藤(中国B)、有吉(九州B)、工藤事務局長、池田事務局次長、大野事務局次長、長谷川(戦略)、田島(東ア)、高橋(世界)、小田(中国)、滝川(航空機)、伊勢(社会貢献)、小柳(財政)、横倉(広報)
欠席 (委)委任状あり	高橋(北海道・東北B)(委)、亀谷(関西B)、藪田(四国B)(委)、宮城(韓国)(委)、樋口(都道府県)(委)、高野(コア)、吉村(社会貢献・財政)(委) 吉岡監査役、白鳥参与
議長	日南田(北信越B)
議事録	池田事務局次長
オブザーバー※	野村監査役、高下顧問、大河原顧問、伊丹アドバイザー
成立条件	26(出席21+委任状5)/28で成立。

※議決権なし

【1-a】会長・四役 議論

<p>a. 入会率の低下と新入会員を巻き込む施策について(議論) 発言者：長末会長 進め方：四役会で議論し、たたき台として作った。意見をいただきながら 2 月の推進会議で頭出しをして次々回の推進会議、あるいは内閣府事業の事前研修の前に方向性を出せたらと思う。</p> <p>現状： 入会率が急激に低下。直近 2022 年の入会者は現在事業参加者 132 名のうち 11 名となっている。このままでは参加者 9 割が連絡を取れない状況となるため、同窓会組織として存在意義を失う。内閣府でも独自に事業参加者の同期幹事の設置を進めており、ますます IYEO の同窓会組織の意義がなくなる。地方では新規会員が増えず組織活動が行えなくなり、IYEO としての活動ができなくなり崩壊につながる。</p> <p>改革素案： ①内閣府事業参加者は全入会。(会費は無料または少額) ②現在個人・一般・賛助会員の別があるが、段階的に会員種別を減らす、またはなくす。 ③会費無料の全入会「アルムナイ会員」と入会費(事後活動研修費)を多く支払った会員「正会員・一般会員」の差別化を図る。 (アルムナイ：同窓会情報の案内、正会員・一般：参加費の減免や各種活動参加の優遇など) ・現在単一都道府県に所属する仕組みを、複数の都道府県組織への所属を認める。</p> <p>課題： ①収入減が確立できていない。 ②都道府県主催事業などでの会員区別が難しい。 ③事務局管理の煩雑化</p>

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

副会長のリードにより各チームで議論し、チームの課題を持ち寄って四役会を実施。
--

質問・意見 (要約・抜粋)

<p>・複数の都道府県に所属は賛成。出身が香川県なので今でも香川の IYEO とは会長や事務局長と連絡を取り合っているが制度上動きづらい面もあるので、登録の仕組みが整えば動きやすくなるし、他県に転出しても地方プログラムなどで地元貢献したいという声もあるので非常にいい取り組みだと思った。(滝川)</p>

→岸田幹事もそうだが、在住都道府県でなくても役員を務めている例もあるので、より実態と合わせたほうがよいと思っている。(長末)

・所属 IYEO のマトリクス化に賛成。会員名簿が総合病院のカルテのようになると良い。地方プログラムを手伝う場合内閣府からの謝金受取は対象になるのか？(横倉)

→地方プログラムの場合はルールを緩和してもらおうよう内閣府と議論していく必要がある。(長末)

・①入会を必須にするというのは内閣府との関係上可能か。(岸田)

→全入会にあたっては事前に承諾書をもらうなど個人情報取り扱いに注意する必要があるが、内閣府側に IYEO への加入を求める説明を請うわけでないので、関係上は大丈夫だと思う。(長末)

②今まで割と入会金に頼っていた財政があると思うが、収入の面はどのように考えているか？(岸田)

→明確な答えはないが、入会率が1割になると入会金に頼る運営が現実的ではなくなった。入会金をなくすことは財政面で現状できないが、ほかの収入減を増やすことを真剣に考えて実行していかないといけない。(長末)

→入会金等への依存脱却に向けて・・・戦略会議の議論で、推進センターが IYEO を利用して人材開発事業を立ち上げて、その事業収入を IYEO の財源にも回すための検討に着手しており、かつ急いでいる。それ以外の財源の柱は、財務会議で話が進められている寄付金と助成金になる。(大野)

→寄付金を募ったりセンターの人材開発事業を立ち上げたりしているがまだまだ財源の柱となりきれしていない。(長末)

③役員は在住都道府県でないといけないという訳ではないのか？(岸田)

→各都道府県の運営の考え方によるが、個人的には都道府県三役の中の一人は当該都道府県在住である必要があるが全員が在住である必要はないと考える。都道府県チームで深い議論をしていく必要がある。(長末)

・全入会でないとなると、同窓生の一部がいるという組織に格下げしてしまう危機感がある。この数年で内閣府・IYEO・センターの関係性の中で従来できていたことができなくなったり、関係性に変化・変容があったりするのであれば知っておきたいと思った。関係性の変化が加速していくようなら、重要な議題として推進会議できちんと議論していかないといけない。(白木)

→今年度から内閣府が独自に今年度事業参加者に同期幹事を置く方針を進めている。来年度世界船でも京都府 IYEO が動いていない中で自治体にプログラムの構築を進めてもらい、IYEO はできるところで協力するという設計になりつつある。本来は IYEO が設計して自治体が協力する形が望ましいが、IYEO が頼れないとみなされているふしもある。(長末)

→今年の参加青年に同期幹事を置くことについては、6月に行われた「あり方検討会議」の中で今後事業を発展させていくためにグローバルネットワークの強化と見える化をすることが重要だとまとめられた。事業の枠を超えたグローバルネットワークを作り、事業参加後もお互いにコラボレーションできる形になったらいいのではないかというイメージができていくが、それを動かすために国内のネットワーク強化のためにはがきを4000通送って過去の参加者の名簿を更新してネットワークを整えていく準備をしている。グローバルネットワークをイメージした場合、今後今どきの青年たちが繋がっていく LinkedIn のようなプラットフォームを探していく必要がある。手始めに今年度事業参加者の代表と、どんなツールがいいのか考えたいということが同期幹事設置のきっかけとなっている。実際に同窓会などを実施してその中で話し合ったことを報告する人がいたらよい、ということである。これは従来事業参加者の9割が IYEO に入会していれば普通にやっていたことだが、ここ数年は IYEO の入会率がすごく下がっていることもあり、今年度参加者の意見を聞くために同期幹事を設置してみたところのようだ。同期幹事が IYEO 会員であることが望ましく、報告会までに同期幹事を決めることになっている。内閣府が事後のフォローもすることは難しいと思うので、IYEO としても協力してやっていきたいと内閣府の担当者と話している。来年度は国内航路で世界船が実施され、寄港地は京都、兵庫、高知となる。京都の場合は施策に合わせて海外の方がたくさん来るイベントがしたいという自治体の希望があるが、京都府 IYEO の実態がない状況で IYEO が協力できる素地がなく、自治体主導になっているが、当日のボランティアや実行委員への関わりは最低限出来るように亀谷近畿ブロック幹事と一緒に自治体と調整に入っている。京都府の事業参加者4名と京都府知事へ表敬訪問した際、一人

は京都府 IYEO の運営に強い関心を持っていて、2 月推進会議に京都府 IYEO 会員代表として出席することになっている。関係性の変容については内閣府も IYEO も人が大きく変わったところもあるので、連携策など白木副会長と相談して今後進めていきたい。(本田)

→京都以外にほかの都道府県でも将来的に実態がなくなり、主体的に活動を行えなくなる可能性もあると思うので全体の課題として受け止めなければいけない。(長末)

・確かに内閣府への申請書に個人情報だけでなく、入会についてもチェックをつけてもらえる、又は入会も含めて記載してもらうのは良いと思う。(伊丹)

→内閣府が他団体(IYEO)の入会金について説明するのがおかしいということが問題なので、入会金が発生しない、もしくは事務手数料の徴収だけにとどめれば内閣府からの説明に含んでもらうのは可能だと思う。(長末)

・要望：都道府県役員と幹事会構成メンバーを兼務できることを明確に確認してほしい。(白木)

→幹事会と全国推進会議の議決権をどうするという問題が出てくるので、会議体再設計を先にやる必要ありそうだ。(大野)

・今まで会費振り込みを内閣府の参加費と同時に振り込んでいた→同時に振り込むのはおかしいのではという内閣府からの意見→別で振り込み→入会率落ちる→コロナでより入会率落ちる、という流れかと思っていたが、問題だったのは振り込みの部分だけで、入会必須にするのが問題ではなかったということか。(岸田)

→入会は IYEO 規約上 2019 年時点では全入会だった。入会しているが入会金相当の事後活動研修費は未納という立ち位置だった。その後の規約変更で IYEO の活動趣旨に賛同し、自ら意思を示したものが会員と変更したことによって、全入ではなくなっていくという経緯だったかと思う。詳しい方がいたら補足・訂正お願いしたい。(白木)

→きっかけは内閣府の立ち位置(IYEO への捉え方)の変化から生じたものかと思っていたので、今回必須にするのが問題ないのか、ということが確認したい。もしまた内閣府の担当が変わって必須にするのはおかしいとかいう話になったら今回の話は内閣府の担当が変わるたびに IYEO の入会制度を変えないといけなくなってしまう…という懸念がある。(岸田)

→無関心層の大量流入により都道府県運営の破綻を招くので、入会意志を確認してから入会してもらうよう、強く求めて規約に入れてもらった。今回の会員制度改革で、入会はずれども都道府県に属さない状態があり得るなら、規約の入会意志ありの文言は削除しても現場は問題なしだと思う。(大野)

→まさに内閣府の担当者次第でコロコロというのは困るところだが、内閣府事業があり方検討会議で大きく変更があるところに IYEO もあり方を検討し、内閣府と目線合わせをして戦略を合わせていけるパートナーになりうるかが重要なのだと思う。(白木)

→会員の大量流入により都道府県運営の破綻を招くというのは、関東など合格者が多い県で問題になっていたということか？どちらかということ IYEO 全体の事務局の管理が大変になるのかと思っていた。地方で活動している際に、「会費を納入していない=正式に IYEO 会とはいえない」が、IYEO 活動には参加している、という立ち位置の人も増えていて、そのような方や引っ越しで県を移動した方にも活動の連絡がいくようになるのは、活動を持続するためには良いと思った。(有吉)

・過去の規約と規約変更時の経緯や論点などもしまとまっているものがあれば参考資料としてあるといいのかなと思った。(白木)

・今年度参加者への入会呼びかけの状況と、感触を教えてください。(池田)

→事務局及び戦略チームの見解では、事業の事前事後研修で 10 分や 15 分説明するだけでは IYEO の魅力を伝えることに限界を感じている。参加青年も目の前の事業に精一杯で、IYEO や事後活動といわれても明確にイメージできないのは仕方ないことかなと思う。制度設計として IYEO を説明する別の場を設ける必要があると考える。(工藤)

→おっしゃるように事前事後研修だけの接点だけではなかなか興味関心を引き付けるのは難しいと感じた。(池田)

・大河原顧問、高下顧問、野村監査役からも意見をいただきたい。(長末)

→新しい仕組みを取り入れていく時期だと痛切に感じている。何もしないでも会員が入会した昔と違って私たちも対応していかないと難しい。マトリックスで活動に関われるのはすごく良いと思う。地方プログラムなどに通訳で同行した時に、出身地でボランティアに関わっている会員を何人も見てきた。入会金の無料化は時間をかけて議論していただきたい。(大河原)

→長末会長が提示したように、全員入会の方向に進めないと組織が持たなくなる。財政を支えるための入会金、という考え方は改めないといけない。この後財政チームからの説明もあるが、いっぺんにできなくてもどうやって進めていくかを議論していかないといけない。推進会議で全体議論をする前に資料を作りこんでいろいろなオプションについて話し合っていけたら。(高下)

→理想は全入会。一任意団体の入会について国が支援することはできないという経緯があったが、事業の同窓会としてコンセンサスは得ているのではないかと思う。大学の同窓会のように事業に参加すれば同窓会に必然的に参加するという流れになっていけばいいと思う。(野村)

・育成の場合は日本青年の同期幹事と海外青年の同期幹事がそれぞれ立って、将来的に内閣府としては国境を越えて同窓会を行って欲しいという話を聞いたが、他事業もそうだろうか？(滝川)

→中国は「中国側で同窓会立ち上げるにはこういう努力が必要です」という説明を内閣府にして以降、なんのレスポンスもないので、どうしていくのか知らない。(小田)

・【アイディア】入会金は無料もしくは少額の登録費用のみにして正会員での全入を目指し、入会2年後からマンスリーサポーター(払いたい人のみ、月額料金)にIYE0収入を切り替えると良いと考える。Learningプログラムなど教育システム強化すると月額料払うメリットあるかなど。入会特典だったブロックイベントが1部無料になったので正会員で入会金を払うメリットが減ってしまった。月額料金を払わない=退会も出来ると見せて自由に入退会出来ることが分かりやすいと気軽に入りやすいと思う。(横倉)

・内閣府とIYE0の関係性もそうだが、IYE0とセンターの関係性もこの改革でしっかりとアップデートして行きたいと思った。(白木)

・【意見】今年度参加青年で入会している方は、IYE0のコミュニティに関心興味を持っていただいている方が多い感触である。色々なコミュニティの選択肢が増える中、IYE0の魅力を的確に伝えていくのが課題だと感じている。(長谷川)

→横倉幹事の尽力により、伝えるための広報機能の立ち上げが進んでいる。そこはゼロからプラスに転じている事実として捉え、着実に組織機能の拡大を目指したいところだ。(大野)

→Humanoで今年度参加青年のインタビューもしていただいたので、同期の思いを知って入会につながるといいなと思っている。いろんなアプローチが必要だと思う。(長谷川)

・入会金を参加費と同時に振り込むこと自体が問題というよりも、内閣府事業の参加者が、一任意団体に入会必須とする点が問題だったという認識だ。内閣府事業参加者が、原則、同窓会組織としてのIYE0に入会する、という流れはよいと思うが、内閣府としてそれをどこまでサポートしてくれるのか(できるのか)を懸念している。(小島)

・IYE0は、内閣府にとって一任意団体ではないと思う。ただ入会必須にはできないので、伊丹アドバイザーのご提案のように個人情報(IYE0に伝える段階で入会チェックをもらうことや内閣府事業とIYE0の関係性をオフィシャルな研修の中で伝えていってもらう方法でいいのではないかと思う。我々が、我々のことを一任意団体だと言ってしまうことは、危ういのではないかと思った次第だが、今の入会率が続き将来的に内閣府事業の出身者がごく一部しかいない団体であれば本当に一任意団体になってしまう。(白木)

→現在のように参加者の1割しか入らない団体は一任意団体になってしまう危機感がある。(佐々木)

・全入会の方向性は賛同するが、退会可能な設計は希望する。(出口も設けたい、活動を望まぬ層は退会できるように)(工藤)

・チームごとに話し合うことで、長末会長の資料の懸念点に対する意見をまとめることができると思う。(佐々木)

・ブランディングプロジェクトで議論を深めたが、IYE0 会員に何を求めている、どんな人を育てるために何をするのか?ということだと思う。(横倉)

・次回の推進会議にはどのような形で持っていくのか。(岸田)

・推進会議までにどのような進め方をするのか?(伊丹)

→推進会議でこの議題を上げて出席者から意見をもらい、反対がなければ次々回の推進会議までに方向性を決めていく。次々回の推進会議までに来年度の事前研修が間に合わない場合など、場合によっては臨時の推進会議を実施する。(長末)

→明確な反対はないと思うが、幹事会内でも入会に対する認識の違いがあるのではと思っている。

副会長がチームごとに幹事を集め、入会促進や活性化に向けて自分たちのチームは何ができるかを話し合い、認識共有するのがよいのでは。横断的に行う上ではそれぞれの認識が合っていることが重要。幹事会として一丸になるのが必要ではないか。(伊丹)

→IYE0 全体を考えての認識合わせは必要だと考える。(長末)

→財政担当からも改革案を提案するが、入会と財政問題を一体で進めていく必要があるので、チームごとの議論や認識合わせは大いに賛成。推進会議になるとブロック幹事と都道府県会長の認識をどのように合わせていくか、推進会議までにどのように道筋をつけていくかが重要。(白木)

・推進会議では各会長の意見を集約するだけで、幹事会の意見として持っていくわけではないのであれば別に良いと思うが、幹事会としてある程度意見を出すのであれば伊丹アドバイザーの仰る通りある程度チームでまとめた方が良くと思う。(B 幹事も事前に各会長の意見集約できると思う)(岸田)

・おっしゃるとおり幹事会が一体となって会員制度改革をするという点は次年度以降のために必須である。その前に、今年度参加者に対するオンボーディングプロセスについて、できることを最大限するために一枚岩になって行うことも必要。その点を戦略担当枠で説明する。(本田)

→一丸となってやるということは、幹事全員が数年かけて組織改革していく覚悟を決める必要がある。(大野)

→組織改革は数年かかるかもしれないが、入会についてはオンラインから対面に戻る今!が大事だと思う。(佐々木)

→まさに今必要な組織改革だ。(大野)

・事務局長 - 事務局次長チームは2月頭に予定している会議で本件も話せればと思う。(工藤)

・オンボーディングプロセスに関わっていく中で、入会率の低下はとても危機感を感じている。改善していくためには、私も同じ問題意識を持って取り組んでいかないと解決しないと思います。また、潜在層(普段関わっていない会員)にいかに関わってもらうのかも IYE0 の活動活性化には欠かせないと思う。(長谷川)

【1-b】会長・四役 議決

b. 幹事会構成員の退任規定案について(議決) 発言者: 長末会長

・役員退任に関する規定を新設 ほか。

議決結果・決定事項

b. 規定案を可決。(賛成18件、委任状5件)

質問・意見(要約・抜粋)

・ワーキンググループの定義を詳しく教えて欲しい。(横倉)

→副会長の所管のチームの中で議論や運営を活発に行うために必要と思われるメンバーを集め、組織

として運営すること。(長末)

→広報では独自の勉強会を行う予定にしているが、ワーキンググループにした方が予算を得やすいということか？(横倉)

→幹事会の組織としてグループを作るか作らないかの違い。(長末)

→オフィシャルかそうでないかの違い。(白木)

【2】戦略 報告

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：本田副会長

・オンボーディング

入会率の低下：収入源の減少と人材が入らないことによる組織の弱体化が喫緊の課題

①今年度入会の促進。

②令和5年度以降の入会制度のあり方の検証と改善。

※Todoに記載。

・他団体との連携

Salzburg Global Seminar：ザルツブルクへの招へいに会員5名が参加予定。

内閣府との協定書の調整：相互の連携について協定書を作成中。

・キャリアデザインセミナー(全6回)

最終回は推進会議にて報告会を実施。

IYEOの活動に接続できるようなセミナーを来年度も実施していきたい。(監修：金澤氏)

b. R5 年度全国推進会議と会議運営の最適化 発言者：池田事務局次長

・推進会議：全国各地から80名の代表者が参加し、コストに見合うだけの社会価値創造を生み出せる会議体にする。

・令和4年度の実績と5年度の方向性について

運営のスリム化と議論の充実化を図る。

To DO・継続審議事項 (担当者、期限)

オンボーディング

- ・同窓会出席者へのコンタクト(各事業)
- ・報告会、表敬訪問のセット(都道府県)
- ・キャリアデザインセミナーの案内(戦略)
- ・登録案内(事務局)

質問・意見 (要約・抜粋)

・京都だけ表敬訪問の様子 IYEO 公式 SNS に載っているが、他の都道府県も SNS 投稿見つけて表敬訪問の様子、広報幹事責任でシェアして良いか？(横倉)

→ぜひ、表敬訪問や報告会のアップをお願いしたい。(佐々木)

→佐々木副会長、ありがとうございます。アップするので表敬訪問した都道府県ご存じの幹事は連絡を。(横倉)

→ブロック幹事に案内する。(佐々木)

→広報幹事責任(意向)で、シェアいただいて良いと思う。今回は IYEO 事務局メンバーが行ったため、事務局で投稿してしまった。都道府県 IYEO での表敬は、ぜひぜひシェアいただくとむしろありがたい。(工藤)

・公式情報発信をする内容が都道府県 IYEO 活動であるとき 当該都道府県が属するブロックの担当幹事又は都道府県全体のルールを守っていたので、この場で佐々木副会長から許可頂き感謝する。(横倉)

→こちらの件、おっしゃるとおりである。ガイドライン整理前のように事務局で投稿してしまったが
今後はルールにのっとって申請させていただく。佐々木副会長、横倉幹事、改めての整理・確認感
謝。（工藤）

【3】事務局 報告

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：工藤事務局長、大野事務局次長

令和4年度 実施

- ・事務局作業の効率化
- ・申請の簡略化
- ・活動の見える化

令和4年度 課題

- ・会員のニーズに合った組織運営
- ・持続可能・時代に沿ったブロックイベント運営
- ・活発な議論が生まれやすい会議の運営

活動支援組織の充実に向け：活動支援にかかわる人たちを今後幹事会 Teams に入れていきたい。

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・令和5年度活動計画案は別途事務局長・事務局次長会で協議。（2月1日）

質問・意見（要約・抜粋）

- ・ワーキンググループもプロ集団で組む。（白木）
- 組織のためにも個人のためにも、各自の得意分野を直接活かせるプロ組織にしたい。（大野）

【4】広報 報告

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：横倉幹事

- ・web、SNS、magazine フライヤーの実施状況と今後の予定について説明

質問・意見（要約・抜粋）

- ・HUMANO 楽しみ。（佐々木）
- ・意見：広報はものすごく活動がアクティブになっているところなので、IYE0 全体の重点施策とし、少ない財源をどこに配分するかということもあるが、しっかりと予算をとって前に進められたらと思った。（白木）
- その予算化は財務の役割に入っているか。（大野）
- 財政は財政課題解決・財源確保に向けての戦略および施策案は出しているが、各チームの予算案取りまとめは財政の役割ではなく、事務局が担っていると認識している。（白木）
- その役割は事務局じゃないと思うが、現状そのようになっていると理解した。（大野）
- 但しそれぞれのチームから出てきている予算希望は財政のところにも情報共有されているので、財源の配分に関しても幹事会および推進会議で議論できればと思う。（白木）

【5】都道府県 報告

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：佐々木副会長

- ・全国井戸端会議開催(1月15日)
- ・都道府県の効果的な情報発信とネットワークの醸成
- ・会員のアクティブ率を高めるための仕組みの整備

- ・全国大会やブロックイベントの在り方の再定義

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・推進会議までにミーティングを実施して令和5年度活動計画について検討。

質問・意見（要約・抜粋）

- ・大野事務局次長の推進している組織改革上の論点にもなるかもしれない。（白木）
- ・組織用語の定義は整えると良さそうだ。（大野）
- ・予算請求の期限までに後日個別相談お願いしたい。最初の議案に戻るが IYEO オフィシャル活動なのか、任意のボランティア活動なのか私の広報業務も整理したい。（横倉）
→IYEO 全体の利益に貢献しているオフィシャルな活動（HUMANO や各種 SNS の運用、内閣府事業への広報協力）は、IYEO 全体の予算で賄われるべきだと思う。ボランティア活動であっても IYEO の名前において行われる活動もしくは IYEO メンバーを中心に実施・運営しているものに関しては、自主財源もしくはチャレンジファンドの支援対象になると思う。個人的な楽しい活動も交流活動ではあるので、予算としての優先度は低いものの都道府県 IYEO と連携したりしながらセンターの活動奨励金の支給対象になってくると思われる。（白木）
- ・自由予算枠が大まかに分かるといい。事業毎に予算請求するというのも1つかもしれない。（高木）
→基本的には各チームが必要な予算を上げて、幹事会で議論して事務局で調整するのがあるべき流れだと思う。（長末）
→ある予算を使うのではなく、活動の価値について考えて、自分たちでどう財源を確保するか考えていかないといけない。（白木）
→白木副会長の話だと、例えば事業担当が各同窓会を行う際の財源が必要になった場合、自分たちで収入を稼ぎながら不足分を予算化してほしい、という考え方になるのか。（伊丹）
→必ずしも独立採算で全部やってほしいわけではないが、それぞれのチームがチャリティイベントや会費制に必要なものをまかなうなどの努力をして、IYEO 全体の予算をどうやって使うか議論すべき。広報や戦略など IYEO 全体で考える部分を各チームがどうやって支えるかも考えていかないといけない。（白木）

【6】事業 報告

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：小島副会長、各事業担当

今年度の目標は各事業同窓会の実施、各事業の実施状況について報告。

- ・東ア船：12月17日に都内で実施。家族含め80人の参加。
- ・世界船：来年度に向けて、実行委員会をすでに立ち上げ済み。活発に準備中。今年度参加青年に向けて事後研修で説明を実施。2月23日にお帰りなさい会を企画。
- ・育成・コア：12月22日に育成コア合同同窓会を「NPO 対話会」をベースに実施。オンラインと対面のハイブリッドで22名が参加。来年度は内閣府の事業の様子も見ながら、これまで実施していた NPO マネジメントフォーラムのようなものやってみよう。コア幹事をどうするかが喫緊の課題。
- ・日中：1月14日実施。対面・オンライン合わせて40名参加。日中は他団体との連携などが進んでいて、ほかの事業のロールモデルとして参考になる部分があると感じた。（長末談）
- ・日韓：2023年夏に開催予定。

令和4年度の課題

- ・今年度は同窓会の実施を目標に各事業取り組んでもらったが、赤字になった同窓会もあった。今後は会場費だけでも予算をつけてもらいたい。
- ・会費で運営するのが前提だが、用途によって事前に支払わないといけない場合もあり、世界船では会場費を70万近く事前に立て替えた。（長末談）

質問・意見（要約・抜粋）

- ・私も妻が参加する日中同窓会にオンラインで少しだけ覗かせていただいた。（白木）
- ・2/23のSWYお帰りなさい会、については、「同窓会出席者へのダイレクトコンタクト」の絶好の機会なのでぜひオンボーディングの観点でもよろしくおねがいしたい。なお、この後Teamsでも連絡するが、2/21(火)夜に事後活動説明の時間があるのでそこでもPRできる。（本田）
→とりあえず今年度参加者とは早い段階で密に接点をもって関係性を築いていけたらと思っている。事後活動説明の中でも是非同窓会実行委員の話も出来ればと思っている。（高橋）
- ・ブロックイベントなどは同窓会組織の基盤を親睦によって強めていくために内閣府が予算化している。事業別の同窓会が毎年計画的に行われることはこのブロックイベントと同じ趣旨で、内閣府に予算措置を求めているのではないか。実行委員が個人的な金銭負担がないようにするべきだが、IYEOの財源だけ予算措置をするのではなく、内閣府やセンターも一緒に活動をどう支えるかを考えていく必要がある。そのうえで自主的なチャリティイベントを行うなど活動を加速させていくのがよい。（白木）

【7】社会貢献 議決

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：白木副会長

・社会貢献チーム立ち上げから、新年度本格稼働に向けての説明
社会課題解決・価値創造を目的とした活動の創出と支援
活動施策案

- ①内閣府事業協力 ②交流&協働促進/会員基盤整備
- ③活動中間支援 ④運営管理(マネジメント)/社会貢献活動推進

・新幹事任命にあたっての説明

現在社会貢献と財政で3名の幹事体制を令和5年度は5名の体制に増員したい。

令和4年度：社会貢献：伊勢、社会貢献&財政：吉村、財政：小柳

令和5年度：社会貢献活動アドバイザー(総括)：伊勢、社会貢献活動チーム：金澤(新)、河尻(新)、

財政・ファンドレイジングチーム：吉村、小柳

※伊丹氏を社会貢献チーム、高下顧問を財政チームのアドバイザーとして依頼。

金澤氏：社会貢献分野で実績大、IYEO 神奈川現副会長

河尻氏：未来創造会議 2022 メンバー、Humano 編集委員

議決結果・決定事項

新幹事任命案を可決。(賛成16件、委任状6件、反対1件、棄権1件)

To DO・継続審議事項（担当者、期限）

- ・推進会議までに新幹事とともに新年度の行動計画を作成。
- ・候補者のプロフィールをTeamsに上げる。

質問・意見（要約・抜粋）

- ・金澤さんは、神奈川副会長とキャリアデザインセミナーと社会貢献幹事、3チーム横断で大変だ。（伊丹）
- ・河尻さんには広報活動で大変お世話になっている。私からも推薦させて頂く。（横倉）
- ・金澤さんは神奈川県代表として全国推進会議に出席予定だ。（大野）
- ・幹事の合計人数は定員30名を超えていないか。（伊丹）
- ・今後の進め方としてはどうなるのか。（日南田）
- ほかのチームからの増員の希望がなければ2名の幹事の増員を要請したい。幹事候補として次年度

の計画に関わり、推進会議にオブザーバーとして参加してもらう。(白木)
 →人事案件は推進会議で議決する必要がある、幹事会で推進会議に諮るための議決をとる必要がある。推進会議にはオブザーバーとして参加し、議決の際にご挨拶いただく。(本田)
 →ほかのチームからの要望は？
 →都道府県はなし(佐々木)
 →現在 28 名で定員 30 名には残り 2 枠。(工藤)
 →現在広報担当副会長が空位だが、就任の予定がなければ大丈夫では。(長末)
 →大野事務局次長から発表があったが、広報は幹事相当の扱いというメンバーを幹事会 Teams に招待する。(広報) 幹事は増やさなくてもよい。(横倉)
 →活動支援組織には幹事相当の役割を求めべき人をどんどん招き入れる必要があるが、20 名とか 30 名とかになるので幹事人数からは除外して考えている。(大野)
 →「幹事相当」であれば幹事会 Teams に招待できないのでは。(伊丹)
 →戦略ミーティングで本田副会長と工藤事務局長に確認済み。都道府県でも副ブロック幹事が入っているので幹事相当として広報活動にかかわってもらえば(横倉)
 →組織マネジメントとしていろいろな役職が増えることは好ましくない、「副幹事」として揃えてもらいたい。(伊丹)
 →幹事以外としては洲崎さんが幹事会 Teams に入っているので、同様の取扱いとなればよい。(大野)
 →事務局員として、ということか。副幹事は規約上規定されていないので副幹事で統一するのがよいのでは。(伊丹)
 →広報副会長不在と広報メンバーの増員について、広報と財政の機能は横断的に IYEO 全体として取り組むものであれば組織の問題なので、一度四役会で議論すればいいのでは。四役会では反対はなかったが社会貢献チームの幹事増員の提案の議決を進めてもらいたい。(白木)
 →事務局からの要望：議案が可決されれば速やかに候補者のプロフィールを Teams に上げていただきたい。(工藤)

【8】 財政 報告

a. R4 年度活動計画の進捗・R5 年度活動計画案 発言者：白木副会長、小柳幹事、本田副会長

財政的課題と対応策について

慢性的な事務局経費の不足、組織運営が持続可能でない

収入減に関しては IYEO 全体で検討。

財政としてサポーター制度の認知度を高め、人数を増やしていきたい。

サポーター制度

プロジェクトに対しての寄付、マンスリーサポーター、大口寄付を整備し、活動活性化と基盤強化を図る。

今後の展開

寄付文化の醸成、生前贈与のストーリー展開、寄付金の使途のガイドライン作成

マンスリーサポーター100 万円以上確保を目標。

予算案の説明

収支予算を①寄付、②各県 IYEO、③入会費を財源とする場合の説明

質問・意見 (要約・抜粋)

・寄付金 8 割を社会貢献活動・若手の活動と言うことだが、同じく当該活動支援が目的の事後活動研修費 500 万円と扱いに違いはあるか。(伊丹)

→事後活動研修費とは使用目的が違うので、IYEO の活動支援や基盤整備に使うことはできない。サポーター制度のファンドレイジングとチャレンジファンドの基金に関して、今後は一本化していく方が望ましいと考えている。(白木)

→すでにある事後活動研修費 500 万に寄付金 8 割を加えらるとなると若手の活動に対する費用がどんど

ん膨らんでいく懸念がある。(伊丹)

→従来の育成ファンドやチャレンジファンドが十分活用されていないのも問題で、現在活動に対する直接的な支援しか含まれておらず、活動を支える広報などへの基盤整備にどうすれば資金を活用できるかも考えていかないといけない。(白木)

→事後活動研修費は今後基盤整備に使うようになるのか。(伊丹)

→事後活動研修費については会員に向けてどのように説明したのかも含めて、中間支援を行う場合は慎重に取り扱う必要があると考えている。(白木)

・一度財政 T×都道府県 T で話し合いをしたい。(佐々木)

・予算①③案については幹事会全員で取り組むべき課題だと考える。(佐々木)

・寄付金の案について、どの程度実現性のある寄付金額か？(この金額の根拠を教えてください)。もしこの案が採用されたとしても、寄付が集まらなかったら結果的にこの案を採用できないことになるのか？予算案は一例ということか。(岸田)

→誰かが寄付金を集めてくる、財政だけが考える問題ではなく、各チームでも IYE0 の財源不足について何ができるか考えて行動してほしい。活動規模によって必要な予算が変わってくるので各都道府県でもできることを検討していただきたい。(白木)

・マイナーコメントかもしれないが、マンスリーサポーターの計算式として、全都道府県から 2 名以上になっているので、大都市はもっと増やしても良さそうだった。(大野)

・戦略で取り扱っている IYE0 ラーニングプログラムも内容によっては IYE0 会員以外にもターゲットを広げ、参加費を少しでも確保できないかと検討している。もちろん集客とトピックスの選択は課題と思うが、取り組みとしては必要だと感じており今後議論する予定だ。(長谷川)

・IYE0 広報活動をしたいメンバーの個人的な持ち出しありき(お金も知識も時間も)で持続可能な活動は難しいと感じていた。IYE0 本体そのものの内部的な組織運営に必要な活動は IYE0 全体の予算で賄われるべきだと言っていたいただき感謝する。(横倉)

・チャレンジファンドは「世界に向けて新規に事業を立ち上げる際のサポート」と認識していた。(横倉)

・推進センターの活動奨励金は都道府県 IYE0 しか使えない仕組みだと思うのでルール緩和をお願いしたい。(横倉)

・広報活動に幹事(各会議で議決権がある人)が必要なのか、事務局員で良いのでは？という部分は四役会で議論頂ければと思う。私は大野事務局次長の提案の通り、推進センター事後活動チームに広報も加わり IYE0 のために尽力するのが良いと考えている。現状維持であれば、伊丹さん提案の副幹事という扱いで広報担当数名を幹事会 Teams に加えていただきたい。

・自分でお金を払ってでも参加する活動(個人の習い事扱い)

・会員としてボランティアで出来る範囲(持ち出しなしで経費は IYE0 全体の予算から)

・専門家として給与を支払うレベル

の明確な線引きを IYE0 としてどう考えていくのか整理が必要な状況だと思う。(横倉)

※認識違いによる記載及び質問は、IYE0 事務局(secretariat@iyeo.or.jp)まで問合せください。

以上